

《担当者名》専任教員 / 岡橋 智恵 / 大山 静江 / 千葉 利代 / 秋元 奈美 / 山形 摩紗

【概要】

我が国における歯科衛生士の教育は、昭和24年から開始されているが、この間、歯科保健に対する社会的ニーズは、その時代時代を反映して多くの変遷を経て今日に至っている。歯科医学・医療の発展は元より、国民の健康に対する概念も変化し、社会のニーズに合った歯科衛生士の育成が望まれている。歯科衛生士概論は入学した学生に対し、歯科衛生士が何故必要とされ、どのような社会的使命、歯科医学的役割を担っているのかを学ぶ。

【学修目標】

- 歯科衛生士になるために必要な歴史や現状を修得する。
- 歯科衛生士の歴史を説明する。
- 歯科衛生士の組織と活動の現状を理解する。
- 海外における歯科衛生士教育を理解する。
- 多職種における歯科衛生士の働きを説明する。
- 歯科衛生士の法的性格と業務内容の要点を理解できる。
- 歯科衛生士の業務独占、名称独占について説明できる。
- 安全管理の必要性を説明できる。
- 歯科専門領域の基本的用語を理解できる。
- 歯、口腔の健康と疾患、異常について理解できる。
- 歯科医療の特異性について理解できる。
- 医療職としての心構えについて理解できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	グループワーク 「歯科衛生士は何をする人か」 歯科衛生の歴史 1) 歯科衛生の誕生と経緯 2) 歯科衛生の背景 3) 歯科衛生業務の現状 4) 歯科衛生士の役割と展望	「歯科衛生士はなにをする人か」について考える。 日本の歯科衛生の誕生について概要を説明できる。 歯科衛生士の誕生について概要を説明できる。 Dental Hygienistの語源について説明できる。	岡橋 智恵
2	グループワーク 「歯科衛生士にできること」 歯科衛生士の活動と組織 1) 歯科衛生活動の現況 2) 歯科衛生活動の場 3) 歯科衛生士と組織	「歯科衛生士にできること」について考える。 歯科衛生士の活動の領域と就業の推移を説明できる。 健康増進に関連する戦略の概要を説明できる。 医療保険制度の仕組みを概説できる。 介護保険制度の仕組みを概説できる。 歯科衛生活動の種類と業務の概略を説明できる。 歯科衛生士の社会組織活動の領域と組織活動を説明できる。	岡橋 智恵
3	グループワーク 「歯科衛生士に求められること」 海外における歯科衛生士 1) 海外の歯科衛生士のあゆみ 2) 海外における歯科衛生士の現状 3) 社会におけるニーズと今後	「歯科衛生士に求められること」について考える。 海外における歯科衛生士教育内容を概説できる。 海外における歯科衛生業務内容を概説できる。	岡橋 智恵
4	グループワーク 「多職種連携を考える」 歯科衛生士の多職種連携	多職種との連携をするために必要な事柄について理解する。 多職種の中で展開する歯科衛生士業務について理解する。 歯科衛生士の限界について理解する。	岡橋 智恵

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
5	歯科用ユニットの取り扱い	基礎実習帳 歯科診療時のユニット準備、片付けの方法と手順を理解する。 感染対策に配慮した歯科用ユニットの準備、片付けを実施できる。	千葉 利代
6	歯科衛生士法と歯科衛生業務 1) 歯科衛生士と歯科衛生士法 2) 歯科衛生士の役割 3) 関連法規 4) 安全管理	「歯科衛生学総論」P42～54 歯科衛生士法に基づく歯科衛生業務について概説できる。 歯科衛生士の業務独占、名称独占について説明できる。 歯科衛生士の専門性について概説できる。 歯科衛生業務に関連する法規を列挙できる。 安全管理の必要性と法的責任について説明できる。	大山 静江
7	歯科衛生士法と歯科衛生業務 リスクマネジメント 1) 事故防止対策 2) 事故発生時の対応	「歯科衛生学総論」P55～65 ヒューマンエラーを分類できる。 本校のインシデント、アクシデントの傾向を説明できる。 針刺し事故が起きた際、適用できる。	大山 静江
8	歯科衛生活動のための理論 1. 予防の概念 1) 第一次予防 2) 第二次予防 3) 第三次予防 2. 科学的思考 1) WHOによる健康の定義 2) ICF (国際生活機能分類) 3) EBM (Evidence-based medicine) 4) 批判的思考 (Critical thinking) 5) 保健行動 6) ヒューマンニーズ理論	「歯科衛生学総論」P20～31 予防の概念を理解できる。 ICF、EBM、批判的思考を説明できる。 保健行動の理論を説明できる。 ヒューマンニーズ理論を説明できる。	秋元 奈美
9 { 10	歯科衛生士と医療倫理 1. 倫理の必要性 2. 医の倫理と患者の権利 3. 歯科衛生士と倫理 4. 患者の自己決定権の尊重 5. インフォームド・コンセント 6. 倫理の適用	「歯科衛生学総論」P66～76 倫理の必要性について説明できる。 医の倫理について概説できる。 インフォームド・コンセント、インフォームド・チョイス、セカンド・オピニオンについて説明できる。 歯科衛生士としての必要な倫理をグループワークより学ぶ	秋元 奈美

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験 90%

授業態度 10%

以上を総合的に判断する。

【教科書】

歯科衛生学シリーズ「歯科衛生学総論」遠藤圭子ほか 医歯薬出版

【学修の準備】

[授業時間外学習]

予習：30分...教科書や講義資料を読んでおくこと。

復習：30分...教科書の該当部分の授業内容と資料を読んでまとめる。

【実務経験】

岡橋 智恵（歯科衛生士）
大山 静江（歯科衛生士）
秋元 奈美（歯科衛生士）
千葉 利代（歯科衛生士）

【実務経験を活かした教育内容】

臨床の現場での実務経験を活かし歯科衛生士がなぜ必要とされ、どのような社会的使命、歯科医学的役割を担っているのかについて講義する。